

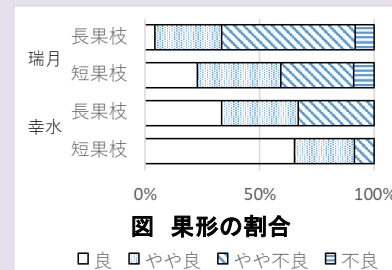
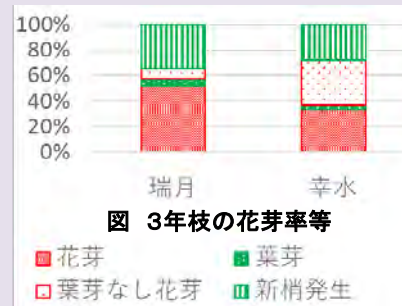
【全体概要】

近年は冬期の気温が高く推移する傾向にあり、暖地の「幸水」を中心に花芽の枯死が発生し、愛知県においても問題となっている。「瑞月」は「幸水」と比較して収穫時期がやや遅いが、花芽の枯死が起こりにくい短果枝の維持が容易で食味も優れる。そのため、今後、発芽不良の問題が深刻化した場合には「幸水」との併用により危険分散を図ることができる。

そこで、本事業では、「瑞月」の短果枝利用栽培技術及びシアナミド剤散布による発芽促進技術について現地適応性を確認する。

新品種・新技術等の概要

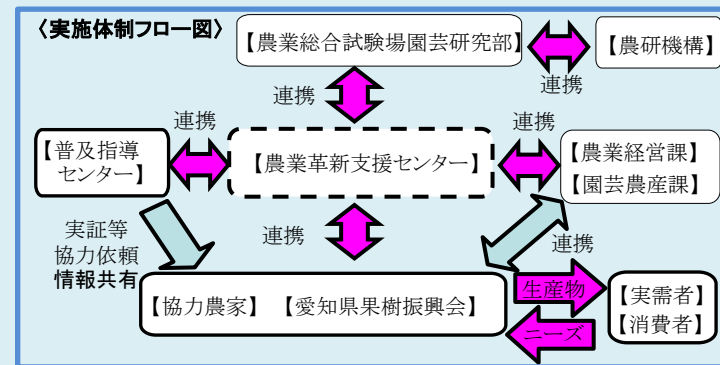
- 「瑞月」は「幸水」と比べて短果枝の葉芽なし花芽率が低く、維持もしやすいため短果枝主体栽培が可能で、幸水の発芽不良への対応手段となり得る。(3年枝以上は今後検討)
- 「瑞月」の果形は短果枝の方が長果枝よりやや優れる。
- GA処理により「瑞月」収穫期は8～10日前進し、8月上旬からの出荷が可能となる。
- 休眠期にシアナミド剤を散布した場合、1～2日の開花促進効果が見られた。



主な取組内容

- 県内4カ所の実証ほにおける短果枝利用栽培の検証
- 実証ほにおけるシアナミド剤の開花促進効果の検証
- 実証ほの試験結果について検討会議を開催
- 得られた知見を「瑞月」(あいみずき)短果枝主体栽培導入手引き(マニュアル)としてとりまとめ

実施体制図



農業革新支援センターが中心となり、農業総合試験場と協力し、生産者・実需者・消費者との連携を図りながら事業の調整・進行管理を行う。

実績と今後の展開

○県内産地における苗木の導入量(累積)

- ・ 556本(R2) → 811本(R4)

○ブランド化の推進

- ・ 「あいみずき」としてブランド化を推進
- ・ R4年8月には百貨店及び大手量販店でPR販売を実施。
- ・ 百貨店では千円/玉を超える高価格にもかかわらず完売
- ・ 消費者の反応は、「あまりのおいしさに感激しました。」と手紙をいただくほど大好評

○今後の展開

- ・ 栽培試験、PR活動及び普及推進の継続